

A-Tの女性へのエストロゲン補充

A-Tの若い女性には、月経が乱れたり、若い時期に止まってしまう人が多いです。また、思春期の性成長が不完全で初潮の見られない女性もいます。月経不順の場合や、月経のない場合、以下のふたつの危険性があります。

- 1 子宮の内側を構成する組織（子宮内膜）が蓄積してしまいます。子宮内膜が定期的に排出されないと、子宮内膜がんの発生するリスクが高まります。
- 2 エストロゲン不足による生理不順の場合、長期にわたり骨粗しょう症（骨がスカスカになる）が進行する危険性があります。



ジョーンズ・ホプキンス病院では小児内分泌科と婦人科の専門医の協力により、以下のガイドラインを作成しました。

月経のない思春期以降の女性に対しては、婦人科医または内分泌科医がプロゲステロンの10～14日間の試験投与を検討します。これは子宮内膜の排出を促すホルモン剤です。

これにより月経が始まった場合には

- ・骨を守るのに十分なエストロゲンが分泌されています。
- ・子宮内膜の蓄積を抑制するため、1～3ヶ月ごとのプロゲステロンの処方（上記）が推奨されます。



これでも月経が始まらない場合には

- ・エストロゲンの分泌が不足しています。
- ・エストロゲンとプロゲステロンの正常な分泌を促すため、継続的な治療が推奨されます。
- ・通常の経口避妊薬（ピル）の使用によっても効果が期待できます。
- ・別の方法として、エストロゲンの服用も効果が期待できます（プレマリンという薬を毎日0.625mg服用する。または毎月、12日間連続してプレマリンを5mgずつ服用する）。

エストロゲンを自分で分泌できているか、経口避妊薬（ピル）を服用していて、通常の食事を取っている若い女性の場合、食事摂取量が十分ならば、カルシウム製剤やビタミンD製剤を飲む必要はありません。1日に必要とされるカルシウム（1,200mg）とビタミンD（400単位）は、1日にコップ4杯の牛乳か、これに相当する乳製品をとることで補給できます。